

# 小・中学校 特別活動

## 1 特別活動の目標

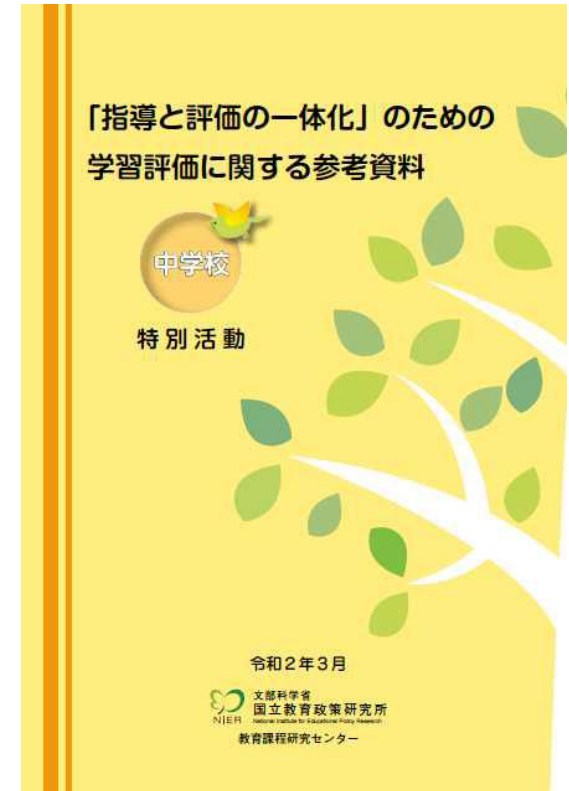
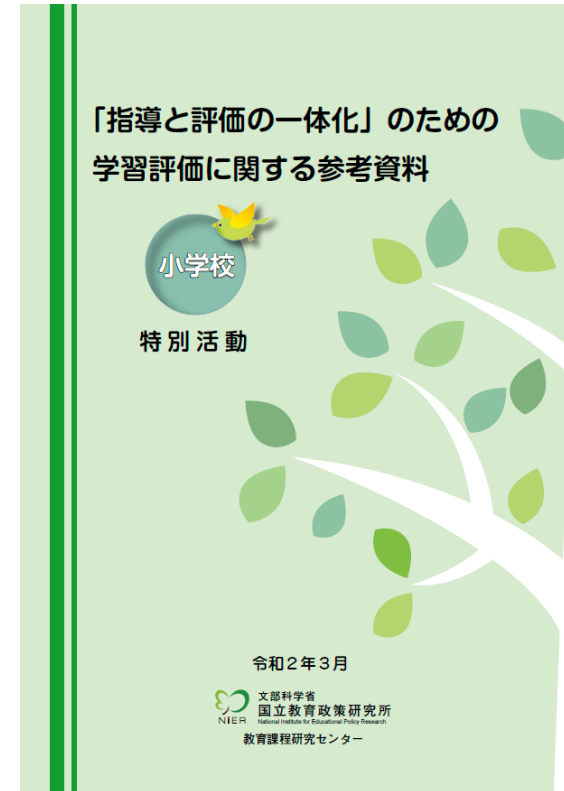
集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ，様々な集団活動に自主的，実践的に取り組み，互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して，次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し，行動の仕方を身に付けるようにする。  
【知識及び技能】

(2) 集団や自己の生活，人間関係の課題を見だし，解決するために話し合い，合意形成を図ったり，意思決定したりすることができるようにする。  
【思考力，判断力，表現力等】

(3) 自主的，実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして，集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに，自己の(人間としての)生き方についての考えを深め，自己実現を図ろうとする態度を養う。(※( )は中学校)

【学びに向かう力，人間性等】



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

## 2 特別活動の役割や意義

### (1) 特別活動の方法原理 「なすことによって学ぶ」

＝様々な構成の集団から学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活をめざして様々な行われる活動の総体。

### (2) 特別活動で育成をめざす資質・能力の三視点

「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」

### (3) 特別活動の見方・考え方

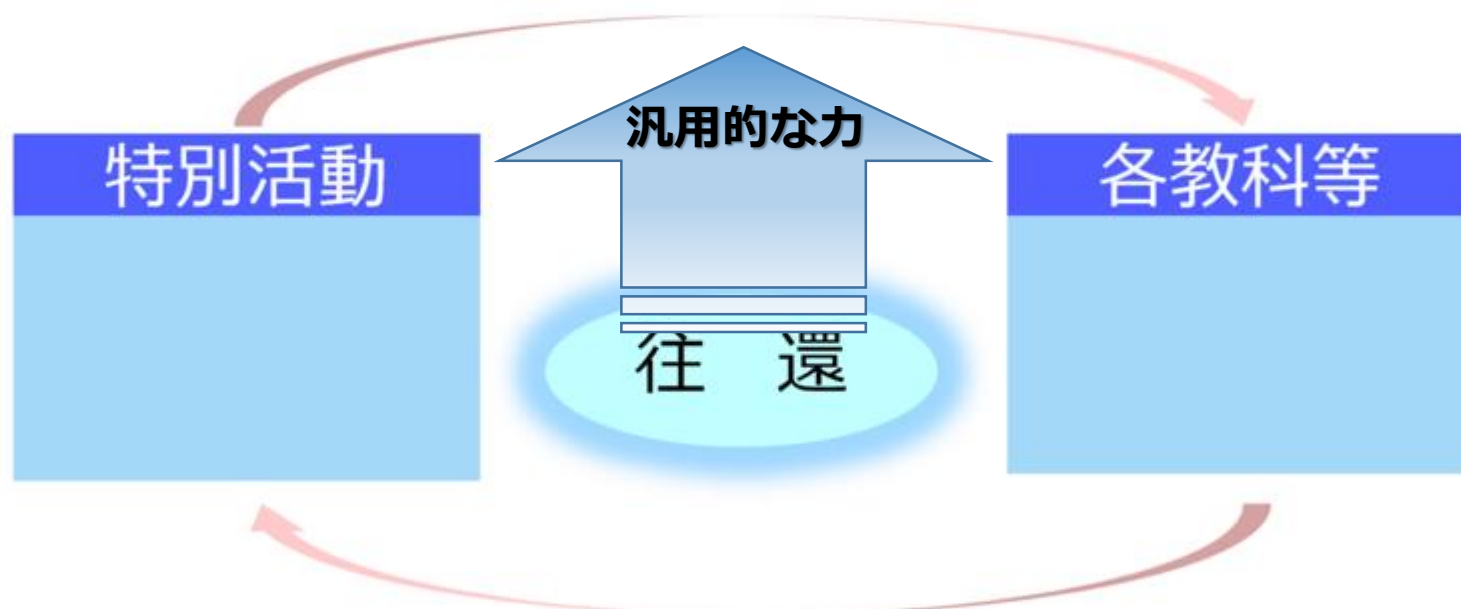
「集団や社会の形成者としての見方・考え方」

特別活動と各教科等とが往還的な関係にあることを踏まえて、各教科等における見方・考え方を総合的に働かせて、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付ける。

# 各教科等との往還の関係とは？

## 【特別活動を通じた学校生活全体の基盤づくり】

各教科等における主体的・対話的で深い学びの実現や、学びに向かう主体的で協働的な集団づくりの基盤となる



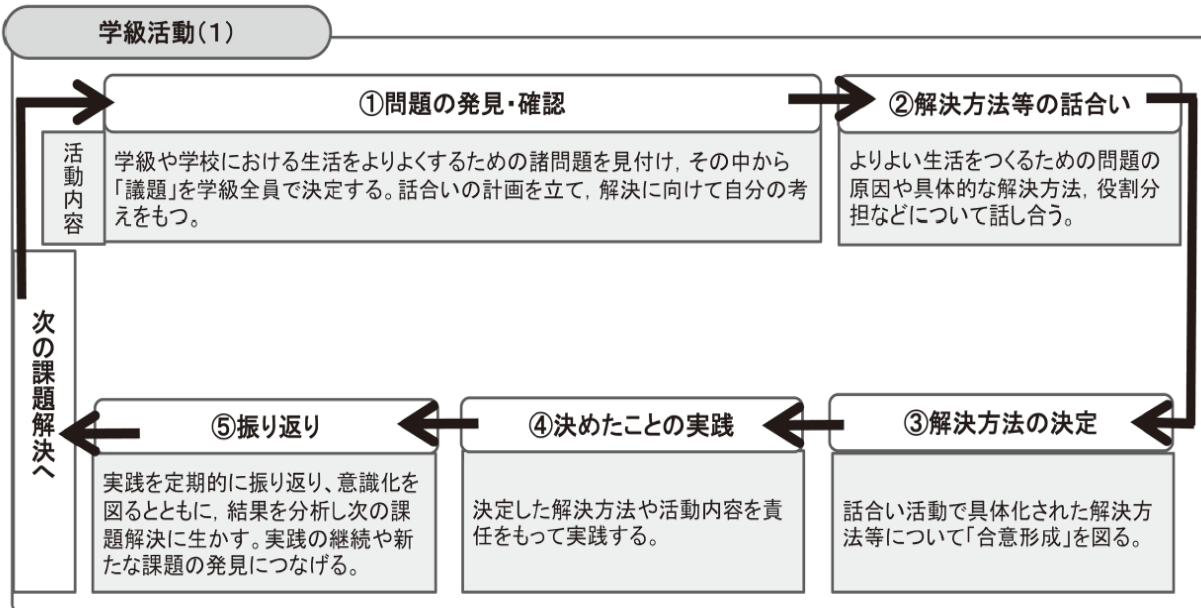
## 【各教科等の学びを生かした特別活動の実践】

各教科等で身に付けた資質・能力を特別活動の各活動・学校行事での実践に生かす

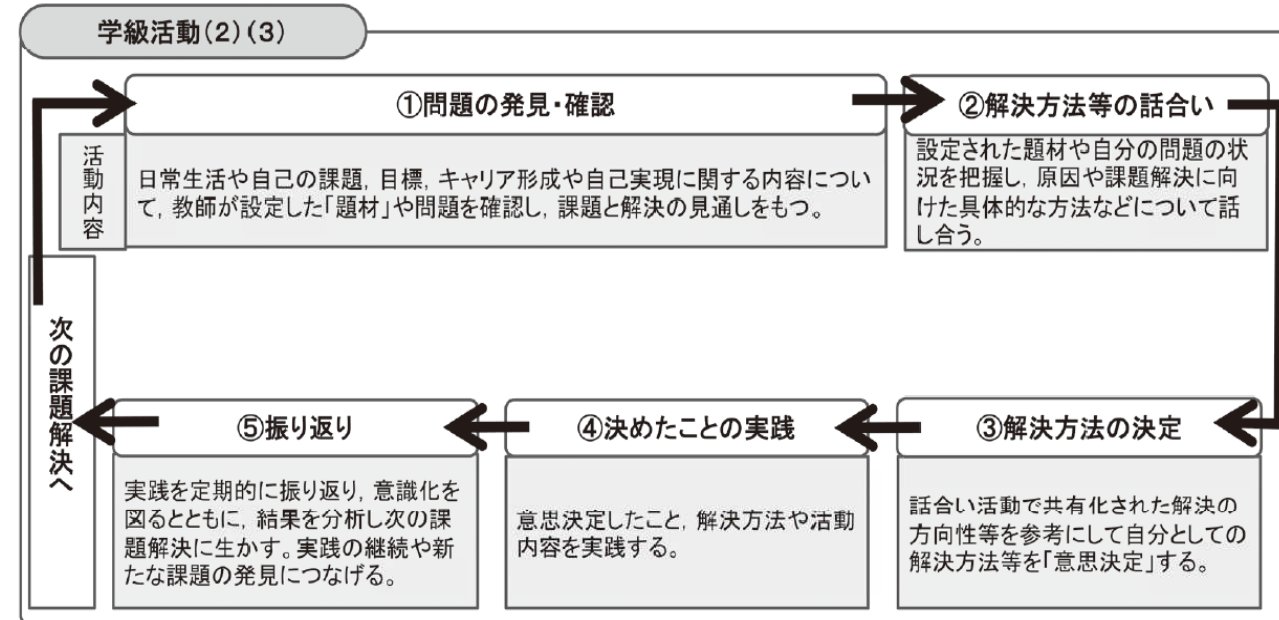
### 3 内容の改善・充実(1)

- ① 学級活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」を小学校に**新設**し、小・中学校の系統性が明らかになるように整理
- ② 自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力を育てることを重視
- ③ 学級活動における学習過程の例示
  - (1)の例 集団の課題を見出し、解決方法を話し合い、**合意形成**の上で実践
  - (2)(3)の例 自己の課題の解決に向けて、話し合いの上、**意思決定**を経て実践

学級活動(1)における学習過程(例)



学級活動(2)(3)における学習過程(例)



# 3 内容の改善・充実(2)

- ④ 特別活動が学校教育全体を通して行う キャリア教育の要である ことを明示(総則)  
→ 学校内外の学びに見通しを立て、振り返ることで、次の学びへの意欲や将来の生き方と結びつけて考えたりする活動を重視 = キャリア・パスポートの活用
- ⑤ 児童会活動では、児童による主体的な組織づくりや異年齢集団交流による社会参画を重視

神奈川県教育委員会

かながわ版キャリア・パスポート

学年、学校をこえて児童・生徒の成長をつなぐ

- 小学校
- 中学校
- 高等学校

◆「かながわ版キャリア・パスポート」の活用について

「かながわ版キャリア・パスポート」は、文部科学省の作成した『キャリア・パスポート』例示資料』をもとに、各学校での活用を想定して作成した資料です。

◎小学校編

- ◇ ゆうがく／進級おめでとう！
- 1 年度はじめ、学期はじめ
- 2 自己理解、自己肯定感を高める
- 3 行事の見通しと振り返り
- 4 学期終わり、年度終わり
- 5 校種をつなぐ

◎中学校編

- ◇ 入学／進級おめでとう！
- 6 年度はじめ、学期はじめ
- 7 自己理解、自己肯定感を高める
- 8 行事の見通しと振り返り
- 9 学期末、学年末の振り返り
- 10 学年末の振り返り (補足)
- 11 校種をつなぐ

※小学校編／中学校編に分かれています。小学校編のシートは、中・高学年を想定して作成していますので、使用する学年の実態に応じて、つくりかえてご活用ください。

※年度の始めに、「キャリア・パスポート」について、児童・生徒に説明するシートがあります。

※シートは、  
・年度始めや学期始めに使用するシート  
・年度末や学期末に使用するシート  
・行事等で使用するシート  
・自己理解・自己肯定感を高めるためのシート  
・校種をつなぐ(小→中、中→高等学校等)シート  
があります。

年度の始めに、「キャリア・パスポート」について、児童・生徒に説明するためのシートです。保護者や地域の方にも、「キャリア・パスポート」のねらいを共有してもらいましょう。

このページには、キャリア教育を  
通して育成する4つの基礎的・汎用  
的能力を例示しています。  
県のホームページには、各校の実  
態に合わせてつくりかえて活用でき  
るWord版も掲載しています。

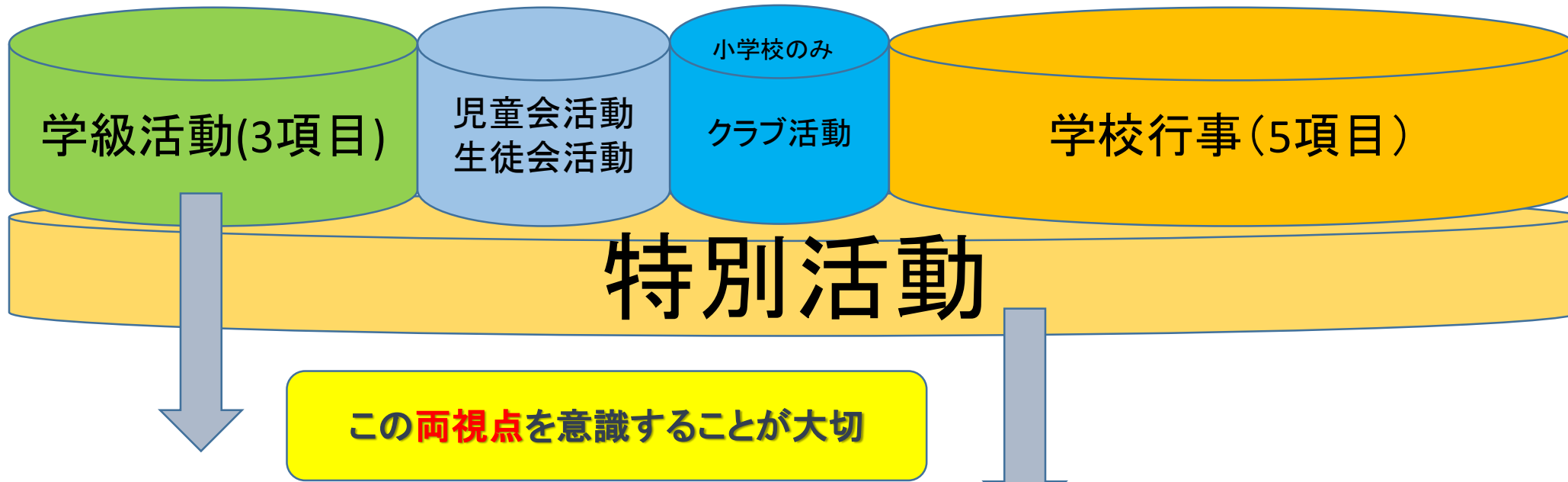
かながわ キャリア教育

検索

# 4 内容のまとめ

小学校	中学校	内容		
学級活動(1)		(1) 学級や学校における生活づくりへの参画 (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現		
学級活動(2)				
学級活動(3)				
児童会	生徒会	小	中	(1) 児童(生徒)会の組織づくりと児童(生徒)会活動の計画や運営 (2) 異年齢集団による交流 (3) 学校行事への協力 (3) ボランティア活動などの社会参画
		(1)	(1)	
		(2)		
		(3)	(2)	
			(3)	
クラブ活動		(1) クラブの組織づくりとクラブ活動の計画や運営 (2) クラブを楽しむ活動 (3) クラブの成果の発表		
学校行事 (1)～(5)		(1) 儀式的行事 (2) 文化的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 遠足(旅行)・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事		
小学校 10個	中学校 9個	←「内容のまとめ」ごとに、「評価の規準(3観点)」が必要。		

# 5 特別活動の全体像

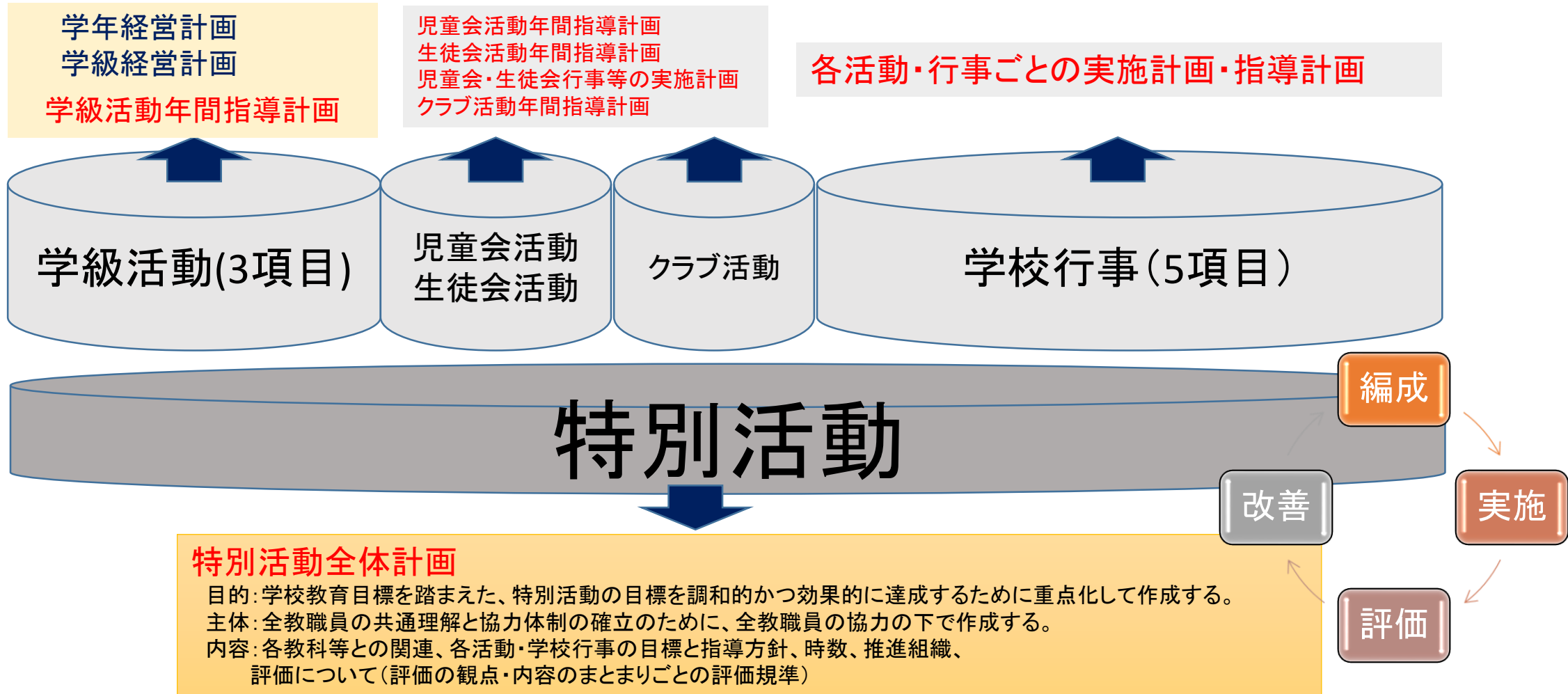


パズルのピースとしての特別活動  
= 学級活動の授業  
(年間35(34)コマ)

パズルのフレームとしての特別活動  
= 生徒会行事や清掃といった学校行事など、教育活動全体を通じて行う特別活動という捉え  
(総合的な学習の時間に代替することもある)

# 6 全体計画・年間指導計画

学校教育目標の具現化に向けて、特別活動と各教科、道徳科、総合的な学習の時間などとの関連を図った独自の全体計画、及びそれに紐づく各活動・行事の指導計画を作成し、実践する。  
⇒カリキュラム・マネジメントの視点





# 7 評価規準の作成①

- ①学習指導要領の「特別活動の目標」と改善等通知を確認する。
- ②学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、改善等通知の例示を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を設定する。
- ③学習指導要領の「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説で例示した「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。
- ④【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

## ①学習指導要領の「特別活動の目標」と改善等通知を確認する。

**改善等通知**とは、

「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」(平成31年3月29日)

# 7 評価規準の作成②

②学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、**改善等通知の例示**を参考に、特別活動の「**評価の観点**」とその趣旨を設定する。

◇**改善等通知の例示**＝「改善等通知」の別紙4各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨が例示された資料を言う。

◇特別活動の目標、各学校の教育目標や重点を踏まえながら、別紙4を参考にして各校で評価の観点を設定する。

(1) 評価の観点及びその趣旨

別紙4より

<小学校 特別活動の記録>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。 よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の回り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

<中学校 特別活動の記録>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。 よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の回り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

## 7 評価規準の作成③

③学習指導要領の「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説で例示した「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。

◇学習指導要領解説では、各活動・学校行事の内容ごとに育成を目指す資質・能力が例示されている。

◇**各学校の実態に合わせて**育成を目指す資質・能力を**重点化**して設定する。

# 7 評価規準の作成④

## ④【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

### ○「知識・技能」のポイント

- ・「知識・技能」は、話合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能の習得として捉え、評価規準を作成する。
- ・学習指導要領解説における資質・能力の例に示されている内容の意義を確認する。
- ・文末を「～を理解している、～を身に付けている」とする。

### ○「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断・表現」は、話合いや実践活動における、習得した基本的な知識・技能を活用して課題を解決することと捉え、評価規準を作成する。
- ・「表現」は、これまでと同様に言語による表現にとどまらず、行動も含んで捉えることとする。
- ・文末を「～している」とする。

### ○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、自己のよさや可能性を発揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、評価規準を作成する。
- ・身に付けた「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力等」を生かして、よりよい生活を築こうとしたり、よりよく生きていこうとしたりする態度の観点を具体的に記述する。
- ・各活動・学校行事において、目標をもって粘り強く話合いや実践活動に取り組み、自らの活動の調整を行いながら改善しようとする態度を重視することから、「見通しをもったり振り返ったりして」という表現を用いる。
- ・文末を「～しようとしている」とする。

# 8 指導内容の重点化

## 指導要領第3の2の(2)

「生徒(児童)及び学校の実態並びに第1章総則の第6の2に示す道徳教育の重点などを踏まえ、**各学年において取り上げる指導内容の重点化を図るとともに**、必要に応じて、内容間の関連や統合を図ったり、他の内容を加えたりすることができること。」



各学校において、児童・生徒の実態やめざす子ども像を踏まえ、重点化するポイントが異なるため、評価の観点も違ってよい。

### 【特別活動における「評価の観点」及びその趣旨をもとにした例】

よりよい生活を築くための  
知識・技能

集団や社会の形成者としての  
思考・判断・表現

主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度

### 【特別活動における資質・能力の視点(「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」)をもとに重点化を図った例】

集団や社会に参画するための  
知識・技能

協働してよりよい生活や人間関係を築くための  
思考・判断・表現

主体的に目標を立てて共によりよく生きようとする態度

### 【「社会参画」に重点化を図った例】

多様な他者と協働するために必要な  
知識・技能

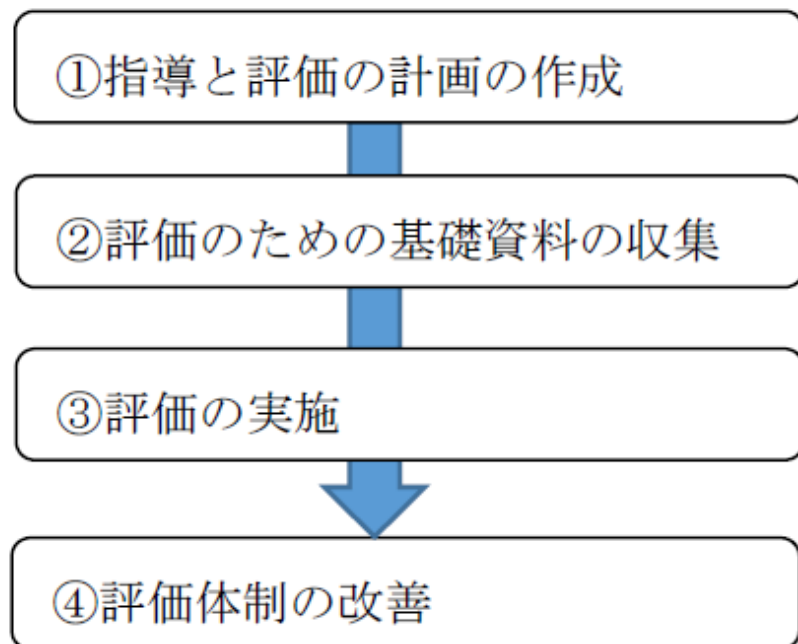
集団や社会をよりよくするための  
思考・判断・表現

主体的に集団活動や生活をよりよくしようとする態度

# 9 学習評価について

- 特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすため、**設置者ではなく、各学校が評価の観点を定める。**
- 特別活動は、全校又は学年を単位として行う活動があり、**学級担任以外の教師が指導することも多いことから、各学校には評価体制を確立し共通理解を図って、児童のよさや可能性を多面的・総合的に評価**できるようにすることも求められる。
- 評価を通じて、教師が自己の指導の内容や方法、指導過程等を振り返り、**より効果的な指導が行えるような工夫改善を図る**ことが求められる。

## 評価の手順



・ 特別活動の全体計画及び各活動・学校行事ごとの指導と評価の計画を作成する。

・ 計画に基づいて、評価のための基礎資料を収集する。

・ 収集した資料を各学校で定めた所定の手続きにしたがって多面的・総合的に判断し、評価を行う。

・ 評価結果を各学校における指導や評価体制の改善に生かす。

# 10 児童・生徒指導要録への記録

【小学校児童指導要録（参考様式）様式2（第5学年）の記入例】

全学年で共通した、各学校で定めた評価の観点を入力する。

評価の観点の変更がある場合を想定して、余白をとっておく。

例えば、児童指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に「自然の教室」で、めあてに向かって自分の役割を責任をもって行うとともに、友達と協力して野外活動に取り組んでいた。」と記入するなど、○を付けた根拠を示すようにする。

特別活動の記録								
内容	観点	学年	1	2	3	4	5	6
学級活動	よりよい生活を築くための知識・技能		○		○	○	○	
児童会活動	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現			○			○	
クラブ活動	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度		斜線	斜線	斜線	○		
学校行事	余白						○	

児童会活動は第1学年から第6学年までの全児童で組織する児童会による異年齢集団活動であることから、低学年においても活動の状況を適切に評価する。

これはクラブ活動を第4学年から実施している学校の例である。学校規模等により下学年から実施する場合は実施しない学年について斜線を引く。

指導と評価に当たっては、各学校で「十分満足できる活動の状況」とは児童・生徒のどのような姿を指すのかを検討し、共通理解を図ってその取組を進めることが求められる。

そのうえで、「目指す児童・生徒の姿」に照らして、十分満足できる活動の状況がみられた場合に指導要録に○を付ける。

# 11 評価方法について

- 児童・生徒のよい点や進歩の状況などを多面的・総合的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにする
- 学習過程や成果を評価
- 児童・生徒の自己評価や相互評価は学習活動であり、直接的に学習評価することは適切ではないが、参考資料として適切に活用する  
⇒ **キャリア・パスポートの実践**
- 各活動・学校行事について具体的な評価の観点を設定し、評価の場や時期、方法を明らかにする